



南アルプスユネスコエコパーク 地域推進協議会設立記念講演会



昨年6月、南アルプスがユネスコエコパークに登録され、これを契機に、将来にわたって自然と人が共生する持続可能な地域社会の発展に取り組むため、有識者や地域の関係者等で組織する地域推進協議会を設立し、保存と活用のある方について調査・研究することになりました。

これを記念して、次のとおり講演会を開催します。多くの方のご来場をお待ちしております。

■日時
5月31日(日)
15時～16時

■場所
市民交流センター
ニコリ3階多目的室

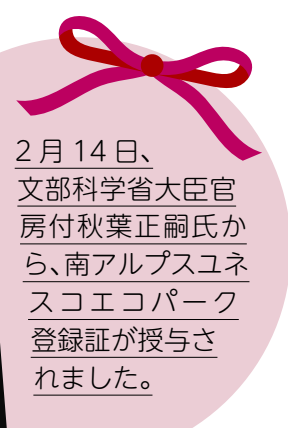
■演題・講師
『南アルプスユネスコエコパークにおける葦崎市の役割』
若松 伸彦 氏
(横浜国立大学 環境情報研究員)
※葦崎市地域推進協議会 オブザーバー

■同時開催
ユネスコエコパーク
登録1周年記念展
『甘利山の魅力展』
登録1周年を記念し、ユネスコエコパークの緩衝地域にある甘利山の魅力展を開催します。

■展示期間
5月26日(火)～31日(日)
9時～22時※31日は16時終了

■場所 市民交流センター
ニコリ1階市民ギャラリー

■問い合わせ
商工観光課観光担当
(内線213・214)



2月14日、文部科学省大臣官房付秋葉正嗣氏から、南アルプスユネスコエコパーク登録証が授与されました。



◆にらさき遺産めぐり第11回



南アルプス鳳凰三山の一つ観音岳に牛が住んでいるのをご存知でしょうか。住んでいるといっても生きた牛

ではありません。観音岳の雪が解け、山に地肌が見えるようになる5月頃に、解けた場所が黒い牛の姿に見え、その牛が山に現われる頃に農作業が本格化することから農牛(のうし)と先人達が名づけたそうです。

この農牛に穂坂地域に水不足に悩ま山麓の人々がいに行きましの神様が、農

関わる昔話が残っています。された茅ヶ岳鳳凰山へ雨乞た。すると山鳥と農牛に命じて夜の間だけ池つくらせたのです。しかし農鳥が朝の来ることを忘れ、農牛は山に帰ることができなくなり、石になってしまいました。そこから牛池と鳥の小池という地名が付いたというものです。

山に現れる ～農牛～

農作業には水は欠かすことはできません。その農作業のはじまりを告げるかのように現われる牛と水不足に悩まされた先人達が憧れた水の豊富な南アルプスの山々が結びついて語り継がれることになった昔話なのでしょう。

記事：文化財担当 閻間俊明